

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害公衆衛生セミナー・実習を開催しました (2019/10/26-27)

テーマ：スフィア (Sphere)

場所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2019年10月26日（土）、27日（日）、宮城県仙台市の当研究所で「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」の災害公衆衛生セミナー・実習を実施しました。宮城県内外の医療従事者（医師、歯科医師、看護師、薬剤師）、行政職員、大学生ら17名が受講しました。

スフィアとは人道支援の質と説明責任の向上を目的とし、その原理は以下2つの基本理念に基づいています：①災害や紛争の影響を受けた人びとには、尊厳ある生活を営む権利があり、従って、支援を受ける権利がある ②災害や紛争による苦痛を軽減するために、実行可能なあらゆる手段がとられなくてはならない。技術的項目の、避難所の1人あたりの居住スペースは最低3.5m²、共用トイレは20人に最低1つ、など多くの指標が内閣府「避難所運営ガイドライン」や他の自治体避難所運営マニュアルにスフィア基準として用いられています。受講生は西日本豪雨災害の実例を題材に、避難所で求められる解決すべき最優先課題はなにか、課題解決のためにどのようなスフィア基準を用い、どのような機関と連携し、実施しなければならないかなど、核心的・具体的な課題についてグループ討議、発表を行いました。

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」では、年間を通じ災害保健医療に関するさまざまな講演、実習を実施しています。佐々木宏之 助教（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）はプログラム運営企画委員会委員・実習コーディネーターを務めており、研修では会場責任者、講師として運営に携わっています。今回は、11月4日（月・祝）に災害国際協力セミナーが予定されています。

年間の講義予定は「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」HP (<https://www.dcmd.hosp.tohoku.ac.jp/curriculum/entry/>)に掲載されており、オープン参加として履修生以外の参加も受け付けています。



原田奈穂子 宮崎大学医学部教授



スフィア基準に照らし支援の在り方を探る



西日本豪雨の実例を元に避難所の課題を検討



検討結果を全体で討論



OCHA クラスタコーディネーション



認定証授与式

文責：佐々木宏之（災害医学研究部門）